

◎在京拡大委員会記事

暮二二月七日、本郷で在京拡大委員会を開いた。出席者は、有賀喜左衛門・大内力・島崎稔・田野崎昭夫・藤木三千人・蓮見音彦・及川徹郎の各会員、事務局より青木和夫・松原治郎であった。協議事項は次の通り。

1 年報第八集は、「村落構造と農政の方向」とし、「農政の新しい方向」を小特集とし、それに大会報告、研究動向を加えることとする。内容および予定執筆者(交渉中)は次の如くである。

一、政治体制と村落の構造(二〇枚)
小特集、農政の新しい方向

有賀喜左衛門

二、農政の転換と村落構造の変革

1 農業(四〇枚) 小池 基之

2 林業(四〇枚) 佐伯 尚美

三、「いえ」の構造変化と新農政

(四〇枚) 並木 正吉

四、地方行財政と農村問題(四〇枚)

阿里 莫二

五、政治体制と農民(四〇枚)

中島竜太郎

学会報告

六、東北村落における地主制と政治体制

(四〇枚) 田原 音和

七、農民層分解と農村支配の構造

(四〇枚) 安原 茂

八、漁村の共同組織と「家」の問題(四〇枚)

玉城 肇

昨年度大会討論「政治と農民」(二〇枚)

余田 博通

動向 政治・法律(未決定)、地方行

財政(佐藤登一)、経済(久留島陽三)

社会(藤木三千人)、歴史(安良城盛

昭)、地理(小川徹)、民族(住谷一

彦) いずれも一〇枚

原稿〆切は五月末。

2 本年度課題は「広く農民の共同(協業)

組織を取扱う」という共同化の線を抜

て採用するか、大内力会員の提案の「農

協組織と村落」をとり上げるかのいずれ

かにするが、さらに会員の声を聞いて詳

細をきめることにする。

3 大会は東京もしくは東京周辺で開くこ

ととするが、できるだけ泊り込みの線を

つらぬく。

4 会費(通信費)の納入状況がおもわし

くなく、財政が苦しくなつてきているの

で、納入を促進する一方、三年以上会費

未納の会員には、会員継続の意志の有無

を返信用葉書でもとめることとする。